

第6号様式（第10条関係）

身体障害者診断書・意見書

氏 名		生 年 月 日	年 月 日生	性 別	男 女
住 所					
① 障害名（部位を明記）					
原因になった ② 疾病・外傷名		交通 労災 その他の事故 戦傷 戦災 自然災害 疾病 先天性 その他（ ）			
③ 疾病・外傷発生年月日		年 月 日	④ 疾病・外傷発生場所		
⑤ 参考になる経過・現症（レントゲン及び検査所見を含む。）					
障害固定又は障害確定（推定） 年 月 日					
⑥ 総合所見					
〔将来再認定 要（1年後・2年後・3年後・4年後・5年後・その他 年後）・不要〕					
⑦ その他参考になる合併症状					
上記のとおり診断します。併せて以下のとおり意見を付け加えます。 年 月 日 病院又は診療所の名称 所 在 地 診療担当科名 科 医師氏名 ㊞					
身体障害者福祉法第15条第3項の意見 〔障害程度等級についても参考意見を記入してください。〕 障害の程度は、身体障害者福祉法別表に掲げる障害に 該当する（ 級相当） 該当しない					
注意 1 障害名には現在起こっている障害、例えば両眼視力障害、両耳ろう、右上下肢麻痺、心臓機能障害等を記入し、原因となった疾病には、緑内障、先天性難聴、脳卒中、僧帽弁膜狭窄等原因となった疾患名を記入してください。 2 歯科矯正治療等の適応の判断を要する症例については、「歯科医師による診断書・意見書」（別様式）を添付してください。 3 障害区分や等級決定のため、奈良県社会福祉審議会から改めて次頁以降の部分について問合せを行う場合があります。					

裏面（その 11）ヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能障害の状態及び所見（13 歳以上用）

1 HIV 感染確認日及びその確認方法

HIV 感染を確認した日

年

月

日

(2) についてはいずれか一つの検査による確認が必要である。

(2) HIV の抗体スクリーニング検査法の結果

	検 査 法	検 査 日	検 査 結 果
判 定 結 果		年 月 日	陽 性 、 陰 性

注 1 酸素抗体法（ELISA）、粒子凝集法（PA）、免疫クロマトグラフィー法（IC）等のうち一つを行うこと。

(2) 抗体確認検査又は HIV 病原検査の結果

	検 査 法	検 査 日	検 査 結 果
抗 体 確 認 検 査 の 結 果		年 月 日	陽 性 、 陰 性
HIV 病原検査の結果		年 月 日	陽 性 、 陰 性

注 2 「抗体確認検査」とは、Western blot 法、蛍光抗体法（IFA）等の検査をいう。

注 3 「HIV 病原検査」とは、HIV 抗原検査、ウイルス分離、PCR 法等の検査をいう。

2 エイズ発症の状況

HIV に感染していて、エイズを発症している者の場合は、次に記載すること。

指標疾患とその診断根拠	
-------------	--

注 4 「指標疾患」とは、「サーベイランスのための HIV 感染症／AIDS 診断基準」（厚生省エイズ動向委員会、1999）に規定するものをいう。

回復不能なエイズ合併症のため 介助なしでの日常生活	不 能 ・ 可 能
------------------------------	-----------

3 CD4 陽性 T リンパ球数（ /μl）

検 査 日	検 査 値	平 均 値
年 月 日	/μl	/μl
年 月 日	/μl	

注 5 左欄には、4 週間以上間隔をおいて実施した連続する 2 回の検査値を記載し、右欄には、その平均値を記載すること。

4 検査所見及び日常生活活動制限の状況

(1) 検査所見

検 査 日	年 月 日	年 月 日
白 血 球 数	/μl	/μl

検 査 日	年 月 日	年 月 日
H b 量	g/dl	g/dl

検 査 日	年 月 日	年 月 日
血 小 板 数	/μl	/μl

検 査 日	年 月 日	年 月 日
H I V - R N A 量	copy/ml	copy/ml

注 6 4 週間以上の間隔をおいて実施した連続する 2 回以上の検査結果を記入すること

検査所見の該当数 [個] …… ①

(2) 日常生活活動の制限の状況

以下の日常生活活動制限の有無について該当する方を○で囲むこと。

日 常 生 活 活 動 制 限 の 内 容	左欄の状況の有無
1 日に 1 時間以上の安静臥床を必要とするほどの強い倦怠感及び易疲労が月に 7 日以上ある	有 ・ 無
健常時に比し 10 パーセント以上の体重減少がある	有 ・ 無
月に 7 日以上の上の発熱（38℃以上）が 2 か月以上続く	有 ・ 無
1 日に 3 回以上の泥状ないし水様下痢が月に 7 日以上ある	有 ・ 無
1 日に 2 回以上の嘔吐あるいは 30 分以上の嘔気が月に 7 日以上ある	有 ・ 無
身体障害認定基準の「13 歳以上の場合」の(1)のアの j に示す日和見感染症の既往がある	有 ・ 無
生鮮食料品の摂取禁止等の日常生活活動上の制限が必要である	有 ・ 無
軽作業を超える作業の回避が必要である	有 ・ 無
日常生活活動制限の数 [個] …… ②	

注 7 「日常生活活動制限の数」の欄には、「有」を○で囲んだ合計数を記載する。

注 8 「生鮮食料品の摂取禁止」のほかに、「生水の摂取禁止」、「脂質の摂取制限」、「長期にわたる密な治療」、「厳密な服薬管理」、「人混みの回避」が同等の制限に該当するものであること。

(3) 検査所見及び日常生活活動の制限等の該当数

回復不能なエイズ合併症のため介助なしでの日常生活	不 能 ・ 可 能
C D 4 陽性 T リンパ球数の平均値 (μl)	/μl
検査所見の該当数 (①)	個
日常生活活動制限の数 (②)	個